

KOKI SUGITA

It affirms your existence.

世界を、和える。

Life Harmony

Performance Art, 2015

Times Square, NYC, US

大書揮毫 (2015年)

ニューヨーク タイムズスクエア

Statement

様々なものやことが複雑に絡み合いながら私たちの世界を築いています。そんな世界に生きる私たちは複雑に絡み合う世界を正しく認識しているのでしょうか。その一側面だけで受け止めていないのでしょうか。

愛という概念を思い浮かべてみましょう。辞書には【そのものの価値を認め、強く引きつけられる気持。かわいがり、いつくしむ心。大事なものとして慕う心。】と書かれています。しかし愛が生み出すのはそれだけではありません。時に愛は【価値を認めずに、強く引き離す気持。憎み、蔑み、妬み。】のように、愛とはかけ離れたものも生み出します。

私が向き合っているのは一義的な概念に囚われてしまった私たちの認識です。閉ざされた認識を開放した時に現れる世界を見たいのです。

例えば、ステンレスを素材として用いた作品『THE PRESENCE』では、鏡面が生み出すものに気付くことができるでしょう。そこには、自分と他者、現実世界と仮想世界、東と西などが表れます。鏡に映る自分、つまり他者でわかるように、それは相反するにも関わらず、ある意味で同一なのです。こうしてお互いを否定することなく相対することで、それぞれの意味を生み出すのです。

閉ざされた世界の見方は普段の暮らしに留まりません。それは美術史にも大きな影響をもたらしています。西洋美術において絵画が生み出したのは空間でした。それは抽象絵画、コンセプチュアル絵画であっても絵画空間として理解されてきました。しかし絵画は空間だけなのでしょうか。書道によって描かれるのは文字だけではありません。それは文字であり、同時に空間を生み出す絵画でもあるのです。

私はこうした作品制作を通じて、全てを受け入れ既に与えられた判断を取り除きたいのです。それによって現代社会の様々な常識や概念を捉え直して、可能性に満ちた世界を見ることができるのではないのでしょうか。

Background

これまでの人生が私の表現に大きな影響を及ぼしていることは間違いないでしょう。

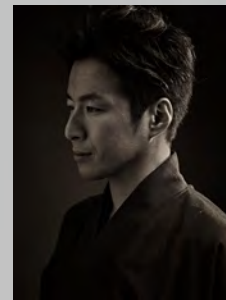
幼い時に、親の離婚と再婚、兄や兄の友人からのイジメを経験しました。何度か死を感じる出来事もあり、「生まれてきてよかったのか?」、「生きていていいのか?」と、幼少期は自分に問い続けることになりました。19歳の時には、わずか7日間に2人の自殺と遭遇したことで、幼少期のフラッシュバックが起きてしまったのです。

そんな厳しい時期に出会ったのが、バスキアの映画でした。彼の生き方に感銘を受け、それを通じて他のアーティストも知り、アートに興味を持ち始めます。同時期に、オノ・ヨーコなどの社会問題をテーマとした活動家や、アーティストから大きな影響を受けます。そしてイラク戦争、環境問題などのコミュニティに積極的に関わることで、ウガンダの元難民の女性と出会い、社会におけるアートの可能性と重要性に気付いたのです。

表現者になるべく美術を学び始めましたが、独自性を失った日本の美術に矛盾を感じるがありました。そこから日本人としてのアイデンティティを考えるに至り、「書道」を表現の媒体にしたのです。まずは路上に描かれる表現としてのグラフィティと同様に、「言葉」を武器にして路上で書く行為を始めました。

自分のアイデンティティを考える中で、日本の伝統文化への興味を押し止めることはできませんでした。そのため神社に滞在し、日本文化の研究として東洋美術と宗教の関係性を探るべく神社仏閣に一晩こもり、書を書き続けることを幾度も行いました。そこで東洋思想における無の境地とも向き合い、作品を生み出すようになったのです。こうして「存在を受け入れ、肯定する」ことが、表現の中核となっていきました。

制作を続ける中で、「存在を受け入れ、肯定する」という考え方が、以前は向き合えなかったものにも向き合わせてくれました。西洋美術とも向き合い、自分の表現に取り入れています。こうした変化が、一つの思想や概念には囚われず、多面的な視点に気付かせることを表現として打ち出させたのです。だからこそ作品を通じて、全ての存在がもつ可能性を示し、受け入れることで見えてくる美しさや素晴らしさを表現できればと願っています。



Artist, 書家

杉田 廣貴

/ KOKI SUGITA

b.1983, Japan
currently resides in Fukuoka

1983 福岡県生まれ
2006 鹿兒島大学 工学部電気電子工学科卒業

個展

2022	INTO THE NOISE	GOLD FLOG(福岡)
2021	存在	小倉城ギャラリー(福岡)
2020	存在	小倉城ギャラリー(福岡)
	書道展	金栗四三生家記念館(熊本)
2019	和の輪郭	美術画廊 東武百貨店 船橋店(千葉)
2017	つながり	ギャラリー別荘(大分)
2014	KOTOTAMA	在アメリカ日本国大使館JICC(US)
	KOTOTAMA	セントピーターズバーグ大学(US)
2013	KOTOTAMA	J-LABO Brooklyn(US)
	文字の息吹	the bridge(大分)
2012	文字の息吹	井筒屋(福岡)
2009	植木紙店ギャラリー	(山口)
2007	Indies Art Club	(長崎)

グループ展

2021	ARTiVERS DAZAIFU 2021	九州国立博物館(福岡)
	FARMACYS Gallery Ginza	(東京)
2019	East meets West	GALLERY girasole(福岡)
2018	East meets West	GALLERY girasole(福岡)
2017	East meets West	Leepa-Rattner Museum of Art(US)
	J+B DEISGN NewYork	(US)
	OSSAM Gallery NewYork	(US)
	Paradise Found	Leepa-Rattner Museum of Art(US)
	ZeN	茶房わらび野(福岡)
2015	East meets West	Safety Harbor Museum(US)
2014	East meets West	Safety Harbor Museum(US)
2011	ギャラリーおいし	(福岡)

パブリック

2021	梅花の宴(モニュメント)	つくし青年会議所設立50周年記念事業
------	--------------	--------------------

受賞

2017	メトロポリタン・エンパイア賞
------	----------------

所蔵先

ヴァンクリーフ&アーベル
ヒルトン・ワールドワイド
Leepa-Rattner Museum of Art(US)

THE PRESENCE

存在



The Presence, 2021 “存在” / Stainless, Stone, Cement / 8m x 3m x 5m



The Presence, 2022 “存在” / Stainless, 120cm x 120cm



The Presence, 2021 “存在” / Stainless, 120cm x 120cm

私は水面（鏡面）に映し出された世界を通じて、自分と他者、現実世界と仮想世界、東と西など、相反する世界との接点を表している。

接点を表現するために、水面としてステンレスを使用する。この作品は、水面や鏡が、古来から自分を見つめるために存在していたという気付きから生まれた。揺れ動く水面を映し出した作品では、こちら側の世界とは違い、歪曲したように見える。それは私たちが思い描く相反すると思っている存在への印象とも受け取れる。しかしながら、映し出されるのはあなた自身。他者だと思っていた存在は私自身の鏡であることが多い。このシリーズは、相反する概念の接点を映し出すとともに、お互いの存在を肯定している。



The Hope, 2021 “希望” / Stainless, Stone, Wood / Installation at Hiyoshi Jinja Shrine

THE VOID

無我の境地



Uncoincious, 2019 “無意識” / Mixedmedia / 65.2cm x 100cm



Uncoincious, 2019 “無意識” / Mixedmedia / 65.2cm x 100cm



Connect, 2014 / Ink on paper, 24cm x 35cm

「無」とは何か？

日本文化や東洋思想を学んでいくと、多くの先人が「無」と向き合うことを知る。

辞書では、無とは【ない。存在しない。】とある。しかし、ダークマターのように、現代の科学では、存在していないのではなく、確かに存在していると考えられている。古来と現代の両面から「無」を捉え、読み解く。先人と同様に、神社仏閣などに籠り、制作を行なうなどして「無」という存在と向き合ってきた。「無」の存在を肯定し、表現している。



The Metaverse, 2022 / Ink on paper, 42cm x 29.7cm



The Metaverse, 2022 / Ink on paper, 42cm x 29.7cm



ENSO, 2014 / Ink on paper, 35cm x 24cm



Uncoincious, 2017 “無意識” / Mixedmedia / 200cm x 158.8cm

THE INTERVAL

間

すべての事象の狭間に存在する「間」。地平線、水平線、陰陽、東洋と西洋、時間。それらは交わらずに境界線を描くこともあれば、融合することで新たな世界を生み出す。東洋文化の墨と、西洋文化のアクリル絵の具を混ぜることで、それぞれの「間」に与えられた存在価値や意味を解体し、「間」の存在を描いている。



The interval, 2021 / Mixedmedia / 91cm x 116.7cm



The interval, 2022 / Mixedmedia / 91cm x 116.7cm



The interval, 2021 / Mixedmedia / 41cm x 41cm



The interval, 2022 / Mixedmedia / 91cm x 116.7cm



The interval, 2021 / Mixedmedia / 91cm x 116.7cm



The interval, 2022 / Mixedmedia / 27.3cm x 27.3cm

THE LOVE

多様な愛

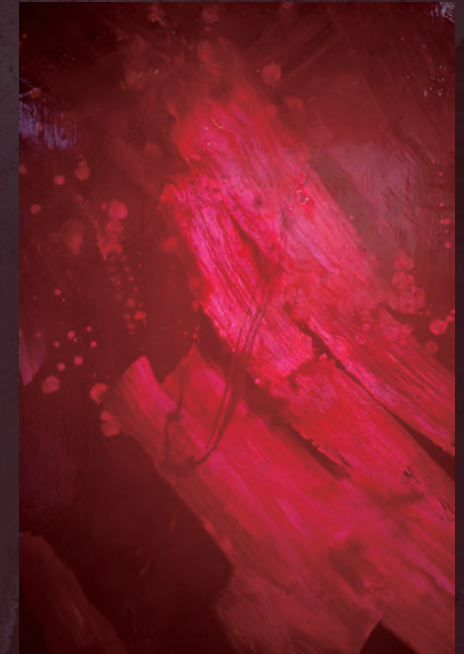
私たちが人生で出会う、様々な愛。その愛に着目した。漆を媒体にした作品では、日本古来から器などに扱われてきた漆に育まれた「愛の存在」を描いている。



I love you, 2019 “月が綺麗ですね” / Mixedmedia / 58cm x 58cm



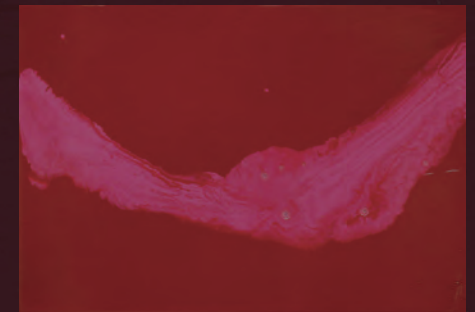
KISS, 2019 “抱擁” / Mixedmedia / 65.2cm x 100cm



Love does not dominate; it cultivates., 2019 / Mixedmedia / 65.2cm x 100cm



The symbol of love, 2019 / Mixedmedia / 23.3cm x 22cm



The symbol of love, 2019 / Mixedmedia / 22.7cm x 15.8cm

THE WORDS

言葉

言葉という存在は、一文字一文字に概念が宿っている。それ自体がコンセプチュアルアートのようなものである。先人から数万年と受け継がれてきたものだ。言葉という存在に、人は感嘆し、騙され、安心する。このシリーズでは、言葉を様々な形で描く。どの形でも、それぞれの存在を肯定し、価値を拡大している。



AUN, 2013 “阿吽” / Ink and Acrylic on TATAMI / 540cm x 90cm



Wind, 2021 “風” / Ink on Paper / 110cm x 45cm



Love, 2021 “愛” / Ink on Fabric / 14.5cm x 14.5cm



Kindness, 2021 “優” / Ink on Fabric / 14.5cm x 14.5cm



Flower of life, like the deep sea, 2015 “花” / Ink on Paper / 137cm x 69.3cm



Brave spirit, 2014 “心” / Ink on Paper / 76cm x 34.8cm



I trash, 2020 / Mixedmedia / 100cm x 100cm



Self Portrait, 2020 / Mixedmedia / 41.5cm x 53.3cm



Drifting in the sea, 2020 / Mixedmedia / 41.5cm x 53.3cm



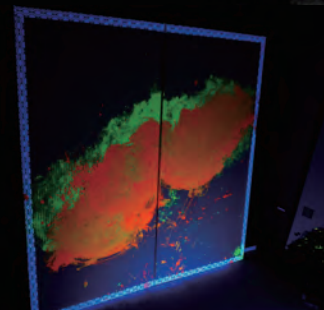
One days view, 2020 / Mixedmedia / 80cm x 80cm



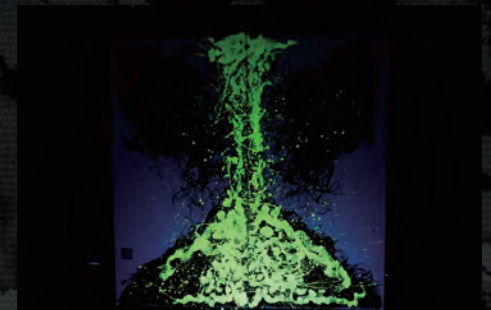
Go Go, 2020 / Ink on paper / 64cm x 52cm



Go!, 2020 / Ink on paper / 70cm x 52cm



ONE, 2013 / Mixedmedia / 90cm x 90cm



Fire, 2013 / Mixedmedia / 90cm x 90cm



Sea, 2017 “海” / Ink on Paper / 158.8cm x 200cm



Selflessness, 2017 “空” / Ink on Paper / 158.8cm x 196cm

KOKI SUGITA

STUDIO

〒818-0125 福岡県太宰府市五条2丁目 1-10-505

MAIL

kokisugita8@gmail.com

www.kokisugita.com

 @KokiSugita

 @SugitaKoki

 @kokisugita8

 @kokisugita

